

# 未来への協働

2024年3月27日(水) 第386号

発行所 未来への協働  
〒577-0023 大阪府東大阪市荒本2丁目14-5  
電話/FAX (06) 4306-3512  
郵便振替 00940-8-213061  
Eメール mirai\_newsroom@yahoo.co.jp  
●発行人 山本 康

●第2・4水曜日発行  
●200円(本体182円)  
●定期購読 購読料(送料別)  
1月 400円(送料188円)  
半年 2,400円(送料1,128円)  
1年 4,800円(送料2,256円)

## 今号の主な内容

- 2面 憲法28条をどう活かす
- 3面 ドイツの草の根原発運動
- 4面 風よあらしよ 伊藤野枝の生涯
- 5面 ガマン強い避難所を変えたい
- 6面 日々漂う「戦雲」 ミサイル搬入

紙面へのご意見、ご感想を。詩、短歌、川柳、写真なども募集しています。



https://kyodomirai.org

# 原発事故避難は不可能

## 地震の警告受けとめよ

「原発のない社会へ 子どもへの服用に同意し 2024びわこ集會」が た親はすでに96%になっ

3月9日、滋賀県大津市の 膳所公園を中心に開か

れ、500人が参加した。 不十分。住民を守るため

連帯のあいさつは米原 には自治体に対応する必

市の平尾道雄市長。市の 要がある。原発を廃止し

原発事故への対応は、直 安全な社会をつくるた

ちに県外に避難する計画 めには、選挙で勝たねば

を検討しており、安定ヨ ならない。勝つことはで

ウ素剤の備蓄も確保し、 きる、投票率を上げよう」



「住民を守るのは自治体の役目」と米原市(滋賀県)の平尾道雄市長=3月9日、滋賀県大津市内

と訴えた。

### 三つの幸運、二つの教訓

基調報告は弁護士士の井戸謙一さん。「能登半島

地震の三つの幸運と二つの教訓」について話した。

幸運の一つ目は、志賀

原発が強い地震動から免

れたこと。志賀町北部は、

震源断層から20キロ離れ

た富来川南岸断層が連動

し、震度7という最大級

の揺れが襲ったが、原発

のある志賀町南部は震度

6弱にとどまった。

二つ目は、珠洲市から

輪島を通過して志賀町まで

86キロにわたる海岸が隆起したが、幸いにも原発周辺は免れた。三つ目は、志賀原発から約10キロ北の富来観測点では、極短周期の応答加速度が1万ガルを超えていた。これが原発を直

撃していたらひとたまりもなかっただろう。

続いて教訓の一つは、人間は地震、津波、火山

などについて知らないことが多いということだ。

活断層の規模、活動時期、活動した時の揺れの

程度などもよくわかっていない。地震計が張り巡

らされたのは阪神大震災以降で、30年もたってい

ない。2千年に一度の地震のことなどわかるわ

けがない。珠洲市には、全部で1000万キロ

ワット、10基前後の原発

を作る計画があった。計

画を止めた珠洲の人たち

は日本を救った。

二つ目の教訓は、避難

計画は「絵に描いた餅」

だ。屋外でも屋内でも避

難できなかった。過酷事

故が起きていけば、住民

は被ばくするに任せるし

かないという状況だ。10・7ハマスの戦闘」について、哲学者の高橋哲哉氏は「シヨアからナクバへ、世界への責任」

「輝かしい記憶をユダヤ人たちに残したとある。トローでユダヤ人グループが地下抵抗運動を組織し、ポーランド・レジスタンスと連絡をとって武器を集め、43年4・19に

「輝かしい記憶をユダヤ人たちに残したとある。トローでユダヤ人グループが地下抵抗運動を組織し、ポーランド・レジスタンスと連絡をとって武器を集め、43年4・19に

「輝かしい記憶をユダヤ人たちに残したとある。トローでユダヤ人グループが地下抵抗運動を組織し、ポーランド・レジスタンスと連絡をとって武器を集め、43年4・19に

## OPINION

### 植民地主義と現在の視点

#### 「シヨアからナクバへ」

大 虐 殺 大 惨 事

約750人の部隊が武装

蜂起を開始した。その

鎮圧にドイツ軍の精鋭

部隊が1カ月を要した。

5万6千人が逮捕され、

7千人が射殺され、残り

ちろん国際法違反だ。「天井のない監獄」がた。デモ隊の一部は議事

は、「被ばくが原因ではない」と言い、避難した人には、「住民の健康被害はないから帰ってこい」と言う。この宣伝に

だまされてはならない。も原発事故との因果関係を認めていない。7人の

## 扇状地

この春、大阪湾と播磨灘のイカナゴ漁は壊滅的だった。大阪湾は全面自主休漁、播磨灘も解禁日1日で漁を打ち切った▼近年のイカナゴ資源の激減、諸説あるが水温の上昇に加え、赤潮対策の下

水処理により、餌となる

プランクトンに必要な栄

養分が不足してきたこと

が大きいらしい▼淡路

市では漁協が中心とな

り、栄養が多い溜池の水

を海に戻すなど、さまざま

工夫もされてきた。筆

者の意見、「イカナゴの

釘煮」のためには、ニシ

ンや明太子のように県外

産になっても伝統の味を

残してほしい▼職場の同

僚女性たちは「高いよ

ね！」と、あきらめ顔…。

親類縁者に配るため「苦

役」を強いられてきた彼

女たちは、ほっとする気

持ちもあるようだ。これ

らジェンダー的課題がク

リアされないところも、

イカナゴ資源復活話がそ

れほど盛り上がりがない原

因の一つかも▼ちなみに

「男もすなる」の私は、

例年2キロほど自ら鍋を

手にし、「ごはんに釘煮」

に舌鼓を打っていた。今

年はこちらろんない。(柳)

# 憲法28条どう活かす

## 組合活動を積極的に承認

「反組合的使用者に鉄槌を！」 講演を行った。

西谷敏さん(大阪市立大学)は冒頭、「憲法28条の団体行動(争議行動など)は組合活動が広く含まれている」という理解が大切だ」と話した。争議件数は1974年には9851件だったが、2022年には270件、半日以上ストは33件と激減している。組合の抗議宣伝やピラミキ行動さえ一般法で禁止されるといふ状況だ。海外でも組合の行為が「強要・脅迫」とされ、「労働組合の団体的行動損害賠償の対象として圧力の権利と限界」と題して

「ストとは無期限ストが基本だ」と話す西谷敏さん(3月9日、大阪市内)



「ストとは無期限ストが基本だ」と話す西谷敏さん(3月9日、大阪市内)

憲法28条は、労働者への抑圧が2つの世界大戦を引き起こしたという教訓のもと、労働者のスト権を原動力とする組合活動を広く「法を越えて認める」というもので、「積極的承認概念」といわれる。その考え方が廃れている。

「ストライキは基本的に無期限ストなのだ」と西谷さんは語気を強める。ところが73年以降の司法反応がストへの弾圧を許し、労働組合に委縮が生まれている。それが労働運動の危機の原因である。

労働運動が労働権を発展させてきたのである。労働組合をつくるのが憲法上の権利であることを知っている者は18%(20年NHK調査)。学校教育にも問題がある。

戦前戦後の日本の闘争史である。労働基本権によって労働組合を作ること合法化されたが、それを使って運動を発展させることは別次元の問題である。たとえ裁判で勝っても、「組織はつぶれ、運動がガタガタ」ではない。逆に「裁判では負けても、運動としては発展」ということがある。裁判や法は運動のための手段であり、その絶対視は危険だ。「裁

判闘争によって運動・組合がどのように発展したかが大事である」と西谷さんは強調した。

「なぜ日本の労働組合はストライキを行わないのか」。台湾で開かれた日本の労働法学者のシンポジウムで発せられた問いに、日本の識者は答えることができなかった。

その原因は、①企業別組合、②ユニオンと産業別労働組合が現状を打破できていない③市民の無理解、の3つがある。労働組合をつくるのが憲法上の権利であることを知っている者は18%(20年NHK調査)。学校教育にも問題がある。

戦前戦後の日本の闘争史である。労働基本権によって労働組合を作ること合法化されたが、それを使って運動を発展させることは別次元の問題である。たとえ裁判で勝っても、「組織はつぶれ、運動がガタガタ」ではない。逆に「裁判では負けても、運動としては発展」ということがある。裁判や法は運動のための手段であり、その絶対視は危険だ。「裁

以上が西谷さんが講演で提起した内容であるが、正直に言って最初は理解しにくかった。それ

### 二つの正当性

「限界」という表題に「判決や労働委員会命令の現状を正しく知る」との二つである。この二つは双方とも変遷しており、労働組合は司法反動以降の動向を常に注視しなければならぬのである。それは「法に見合った闘いで、組合は「限界」という表題に「判決や労働委員会命令の現状を正しく知る」との二つである。この二つは双方とも変遷しており、労働組合は司法反動以降の動向を常に注視しなければならぬのである。それは「法に見合った闘いで、組合

「現場にのしかかる不安」 寄稿 郵政労働運動の課題 ② 「郵政事業はこのままで大丈夫か」 こうした不安が郵政の現場労働者にも重くのしかかっている。昨年12月18日、郵便料金値上げ検討が報道されたことが大きい。24年秋以降、はがきや封書を3割超値上げするという内容だ。

ただでさえ減っていた郵便がこれですます減ることになるだろう。「それでも値上げしない」と郵政事業もたないのではないか」 「経営努力による収益改善やコスト削減等に取り組み、一昨年度までは継続的に郵便事業の収支を黒字としてきた」とまるで会社と同じ。さらに経営努力の具体的中身として「非正規雇用化と、従

「現場にのしかかる不安」 寄稿 郵政労働運動の課題 ② 「郵政事業はこのままで大丈夫か」 こうした不安が郵政の現場労働者にも重くのしかかっている。昨年12月18日、郵便料金値上げ検討が報道されたことが大きい。24年秋以降、はがきや封書を3割超値上げするという内容だ。

「現場にのしかかる不安」 寄稿 郵政労働運動の課題 ② 「郵政事業はこのままで大丈夫か」 こうした不安が郵政の現場労働者にも重くのしかかっている。昨年12月18日、郵便料金値上げ検討が報道されたことが大きい。24年秋以降、はがきや封書を3割超値上げするという内容だ。

4月7日(日)  
4・7全国同時アクション  
不当弾圧許さない! 決起集会

●午後1時  
●西天満若松浜公園 ※大阪地方裁判所南側  
主催:労働組合つづしの大阪弾圧許さない実行委員会

5月1日(水)  
戦争やめろ! 物価高を打ち破る賃上げを!  
第95回中之島メーデー

●午後1時半  
●中之島公園剣先ひろば(大阪市北区)  
主催:第95回中之島メーデー実行委員会



# 風よあらしよ

## 女性解放闘争の先駆者

伊藤野枝の生涯



伊藤野枝 (1895 - 1923)

関東大震災から100年目の昨年は、朝鮮人虐殺を描いた映画『福田村事件』が話題となったが、虐殺の犠牲者の中には社会主義者や無政府主義者もいた。女性解放闘争の先駆者であった伊藤野枝も、夫の大杉栄とともに警察署内で拷問の上、殺害。遺体は古井戸に遺棄された。享年28。

### 天皇制下の抑圧

野枝が生まれた100年前の日本は、海外では日清日露戦争をへて朝鮮・中国侵略に踏み出し、国内では天皇制絶対主義体制の下で極端な男尊女卑の家父長制度が女性を押しつけていた。女性の地位は近代天皇制の下で江戸時代よりも低められたという。

### 野枝は口清

野枝は口清戦争の講和条約が結ばれた1895年に福岡県の貧しい瓦職人の家に生まれた。よほど利発だったのだろう、野枝は叔父の援助で東京の上野女学校に入学。卒業後帰郷し、親によって強制的に結婚させられたが、9日目で婚家を出奔し東京に戻った。22人の女性が当選

### 野枝は女性

野枝は女性

### 「赤濁会」の結成へ

野枝は辻潤との間に二人の息子を



大杉栄と伊藤野枝、中央は長女の魔子=1923年7月

団体「赤濁会」を結成する。「赤濁会」は検挙・投獄など権力の弾圧で自然消滅させられてしまうが、差別社会の中でひたすら自由と権利を求めた女性たちが、家制度の束縛をかなぐり捨てて、悩み、あがき、ダダイズムと出会う、アナキズムに憧れるかどうかなど、記録が残されておらず残念である。野枝が次にパートナーとして選んだのがアナキストの大杉栄だった。妻がいた大杉との同居は自由奔放であるともいえる。野枝は「淫乱」国あり、世間から「淫乱」国賊」と罵られたが、野枝のほとぼる自由と解放を求める情熱はとどまることはなかった。

### 「道徳・倫理」の打破

「道徳・倫理」の打破

団体に疲れ果て、結局は敗北して引き下がらざるも、それ以上に抵抗を続けられ、「非常識」「アバズレ」とレッテルを貼られ、世間を敵に回すことになる。この時代に女性が「家」を出て経済的に自立する道はまずない。現代においても私たちは「女のくせでも私たちは」と言わねながら育ってきた。このうした家制度を社会的基盤にして、天皇制国家が成り立ち、その下で徴兵制と侵略戦争が遂行されたのだ。

結婚に際しては「処女の性」や「純潔」が、結婚後は「貞節と忍従」が女性だけに求められた。舅、姑に任せ、夫に任せ、家を守っていなければならない。夫がシベリアに出兵中の女は、どうすればよかったのか。おとなしく性だけ求められた。舅、舅・姑に任せ、「貞節」を守っていなければならない。

### 家父長制との闘い

家父長制との闘い

野枝たちが立ち向かった家父長制とは何か。特に男性の読者に理解していただきたい。100年前、女性が自分の意見を述べようとする時にまずぶち当たるのが家父長が絶対的な権力をふるう「家」である。この絶対から始まり、その堅

### 「家」の崩壊

「家」の崩壊

前、女性が自分の意見を述べようとする時にまずぶち当たるのが家父長が絶対的な権力をふるう「家」である。この絶対から始まり、その堅

### 「家」の崩壊

「家」の崩壊

前、女性が自分の意見を述べようとする時にまずぶち当たるのが家父長が絶対的な権力をふるう「家」である。この絶対から始まり、その堅



1912年、青鞥社にて撮影。前列左から2人が平塚らいてう。



『青鞥』創刊号 (1911年9月)

『青鞥』創刊号には、「山の動く日来る」で始まる与謝野晶子の詩「そぞろごと」が掲載された。その78年後、参院選(89年)で22人の女性が当選

### 「家」の崩壊

「家」の崩壊

前、女性が自分の意見を述べようとする時にまずぶち当たるのが家父長が絶対的な権力をふるう「家」である。この絶対から始まり、その堅

前、女性が自分の意見を述べようとする時にまずぶち当たるのが家父長が絶対的な権力をふるう「家」である。この絶対から始まり、その堅

野枝たちが立ち向かった家父長制とは何か。特に男性の読者に理解していただきたい。100年前、女性が自分の意見を述べようとする時にまずぶち当たるのが家父長が絶対的な権力をふるう「家」である。この絶対から始まり、その堅

### 「家」の崩壊

「家」の崩壊

前、女性が自分の意見を述べようとする時にまずぶち当たるのが家父長が絶対的な権力をふるう「家」である。この絶対から始まり、その堅

前、女性が自分の意見を述べようとする時にまずぶち当たるのが家父長が絶対的な権力をふるう「家」である。この絶対から始まり、その堅

野枝たちが立ち向かった家父長制とは何か。特に男性の読者に理解していただきたい。100年前、女性が自分の意見を述べようとする時にまずぶち当たるのが家父長が絶対的な権力をふるう「家」である。この絶対から始まり、その堅

### 「家」の崩壊

「家」の崩壊

前、女性が自分の意見を述べようとする時にまずぶち当たるのが家父長が絶対的な権力をふるう「家」である。この絶対から始まり、その堅

前、女性が自分の意見を述べようとする時にまずぶち当たるのが家父長が絶対的な権力をふるう「家」である。この絶対から始まり、その堅



演出：柳川強 原作：村山由佳 脚本：矢島弘一 主演：吉高由里子

上映スケジュール

岩手	盛岡ピカデリー	4月12日(金)
群馬	前橋シネマハウス	4月6日(土)
長野	長野相生座/ロキシ	3月29日(金)
三重	伊勢進富座	4月19日(金)
兵庫	元町映画館	3月23日(金)
佐賀	シアター・シエマ	3月29日(金)
大分	別府ブルーバード劇場	4月15日(月)
沖縄	桜坂劇場	3月30日(土)

# ガマン強いる避難所 変えたい

PRIDE 新・私のジェンダー考 (20) 災害とジェンダー ①

13年前と変わっていない  
これは13年前の3・11直後に福島県北部・郡山市の大規模避難所に最初に入ったときのウイメンズスペース・福島のメンバーの話である(注)。テレビ画面に映し出された能登の避難所の様子は衝撃だった。13年前と何も変わっていないではないか。

自治体まかせの対策  
福島は女性たちは立ち上がる。避難所運営責任者や行政に改善を求めるが、とても「そんなこと」をやる余裕はないと突っぱねられる。やれるだけやってみようという女性団体と力を合わせて「外の理解も徐々に進んでき

たことで、16年、政府は、国際的な災害時の基準(スフィア基準)を参考にジェンダー視点を含み「避難所設置ガイドライン」を策定した。しかし、実際には自治体任せで、自治体の防災担当者にも、そもそも問題意識がない、あっても予算も人手もないなど遅々として改善されていない。全国の自治体に設置された防災危機管理担当部門の女性職員数は全体の11%に過ぎず、半数の自治体ではゼロ。防災の計画立案にあたる「地方防災会議」の女性委員数

「(広い体育館で)50センチの段ボールの仕切りの区画に男女が隣り合って寝起き/女性の更衣室や授乳スペースなく/女性(妻)の多くは食事や水、衣類の支援物資を受け取る列に並ばされ/災害弱者となりやすい女性や子ども、障害者、高齢者への手厚い対応やジェンダーの視点は完全に欠けていた/夜、男性が毛布に入ってきたり、男の子がパンツを下げられたとぞっと打ち明ける女性もいた/支援物資のスポ



2011年東日本大震災時の気仙沼市内の避難所の様子=公益社団法人日本ユネスコ協会連盟のウェブサイトより転載

今年85歳になった石川一雄さんの再審をめざす集会在大阪の西成区民センターで開かれた。「被差別部落に生まれて」の著者、黒川みどりさんが講演を行った。

2021年9月に石川一雄さん・早智子さんと出会い、お話を聞いたことが本を書ききっかけに。石川一雄さん本人に焦点をあて、等身大の石川さんを知ってもらいたいと考えたという。

## 声 狭山再審 垣根をこえて

石川さんは狭山の被差別部落に生まれ、9人兄弟。家は貧しかった。お母さんはトラホームにかかったが病院に行けず失明した。10歳から年季奉公に行った石川さんは学校教育を十分受けることができなかった。善枝さんが殺された時、部落に捜査の目が向けられた。「部落は犯罪の温床」と

川さんは無罪を主張し、警察に騙されて犯人に仕立て上げられていることを石川さんが知ったのは、東京拘置所の中だった。石川さんは、警察官から「お兄さんが犯人かもしれない」と吹き込まれていた。また、「死刑判決が出て10年で出られる」と騙されていた。そのことに気が付いた石川さんは、

## 投稿

### ヘイトに怒る若者たち 水曜デモで起きたこと

181回目の「水曜デモ」(神戸)。残念で腹立たしいことと嬉しいことがあった。いつものようにアピールを始めたところ、60歳くらいの男性が近寄ってきた。男性は私たちの横断幕を見ながら、「これはチョーセンのことか」「大嘘やないか」と吹っかけてきた。もちろん、私たちは説明した。「日本軍慰安婦」問題は、女性の人権にかかわること。朝鮮だけの問題ではないですよ。しかし、彼は執拗だった。大声でわめき散らし駅前が騒然となり、なかなか立ち去らない。大声で怒り、通りがかりの女性が「警察に電話しましょうか」と声をかけてきた。女性には、本当に恐怖を感じた。私が場所を変えようとしていると、やっぱり警察がやってきた。あの男性もいっしょに。けっきょく「被害届を出す、出さない」と、面倒な話になってしまった。もちろん「事件」にはなっていない。この事態に、この日、私たちは「水曜デモ」を行うことができなかったが、いい若者たちに出会うことができた。

### 三里塚の産直野菜



三里塚「産直野菜」は有機無農薬。毎週・隔週、「お試しセット」あり。  
(お問い合わせ)  
TEL/0799-72-5242  
関西実 E-mail/ kanjitsu\_mail@yahoo.co.jp

(淡)

トガシさんの「沖縄便り」(76)

# 日々漂う「戦雲」に

## ミサイル搬入

メールが届いた。「3月10日、中城湾港の西埠頭第4ゲートに朝7時集合」とのこと。読谷を6時に出発しなければならぬ。すると5時すぎの起床となる。概文には「勝連分屯地への地对艦ミサイル搬入を許さぬ」とあった。

自衛隊の勝連分屯地(うるま市)は、いま琉球列島の島々に急ピッチで造られている自衛隊基地の司令塔となる所である。その建設途中の基地にミサイルが搬入され、司令塔の機能を完成させるようとしている。



中城湾港西埠頭第4ゲートの前でミサイル車両搬入に抗議する人びと=3月10日

半にゲートが開き、福岡から運ばれて来たミサイル関連の車両数台がすでに上陸しており、すぐ先に見えた。

## 座り込みと牛歩

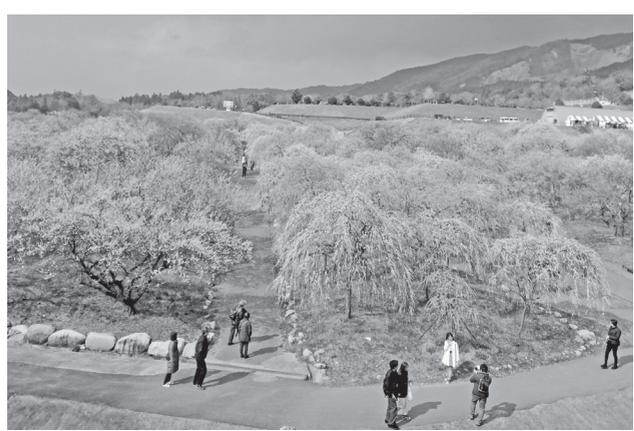
集まった市民はその場に座り込んだ。警備の自衛隊員と「道を開けよ」「開けない」のやり取りが続く。7時半近く、市民側から「間もなく機動隊による排除が始まると思う。排除されたら前の道で牛歩しましょう」とアナウンス。私たちが、簡単腕を組もうとする、ゲートの先に待機していたミサイル関連の車両がバックし始めた。口々に「裏へ廻るぞ」との声が上がり、急いで裏口に向かう。かなり広い敷地であり、歩いては間に合わない。車で裏口に向かう、そこで座り込んでいた仲間はずに排除されてお

隊による排除が始まると思う。排除されたら前の道で牛歩しましょう」とアナウンス。私たちが、簡単腕を組もうとする、ゲートの先に待機していたミサイル関連の車両がバックし始めた。口々に「裏へ廻るぞ」との声が上がり、急いで裏口に向かう。かなり広い敷地であり、歩いては間に合わない。車で裏口に向かう、そこで座り込んでいた仲間はずに排除されてお

人ほどの参加者で4時間向かっていると、歩道で仲間らしき人が所々に立っている。聞けば「何台かは先に分屯地に行っ」が想像できる。2面左端には6段抜き「小型船の岸壁使用許可」の見出し。「石垣市、米駆逐艦きょうから碇泊」と小見出しが付いている。11日に米海軍のミサイル駆逐艦が石垣港沖合に碇泊する。沖合から乗員を右

見出しは「離島奪還想定」である。「宮古島陸自へリ墜落の原因が特定できず」の記事もある。戦雲は辺野古にも漂っているのだが、11日の新聞には載っていない。なんとも、うっとうしい沖縄の現状である。

# まい・しよっと (72)



三重県いなべ梅林公園。38ヘクタールの広大な庭園に広がる花梅、実梅の白やピンクの花霞は絶景そのもの。約100種4500本の梅林である。毎年2月から3月に開催される「梅まつり」には、多くの人

投了は嫌だ 最後の反撃だ 黒板を磨く仕事をしています 説教が好きな私は高齢者 無宗教の家族葬だと子に伝え 血圧を測った浪江町役場 語り部は伝承館の佐々木さん 小春

## 川柳

和秋

## 踏みじられる民意 子に沖縄の真実伝える

3月9日(土) 辺野古神戸行動。途中でみぞれが降り、風も強く最悪の天候だった。さぞかし署名は少ないだろうと思っていたが、14筆も。しかし、年配の女性が1人で娘さんの嫁ぎ先家族全員を、お孫さんも含め7筆、子連れの3人家族



全員、あと若い男女が4筆という内訳だった。リリーススピーチは悪天候にもめげず。「国が沖縄の民意を踏みにじっている」など訴えた。ジャンベ(太鼓)を持つ参加があり(写真)、気持ちよく誓った。終わって後、ガザの平和を訴えるスタンディング。

3月16日(土) 今日もジャンベが響いた。スピーチをしているところにも沖縄のことを伝えま



「基地建設に賛成です」。若者にもチラシを加歓迎。(なかい)

## ひとこと

処理水問題、元から断たねば駄目、だから原発は止めなければ。声。追い込まれる非正規労働者。「階級とかよ、身分差別」に納得。(い)「身分差別を感じる」一そこまできているのか。「学ぶたびに悔しく、嬉しく」奪われた人生を取り戻す言葉。(ち)「わが息子も非正規労働者への冷酷なシステムなのか、働く仲間意識も持てぬまま」。(な)「扇状地、まい・しよっと。一強自民の迷走と猛き平家衰亡を思う。(ま)